

2023（令和5）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495600569	事業の開始年月日	令和2年9月1日
		指定年月日	令和2年9月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア王禅寺グループ		
所在地	( 215-0018 ) 神奈川県川崎市麻生区王禅寺東3-1-24		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

王禅寺ふるさと村公園近くに位置し緑が多く自然豊かな環境の中にあります。小規模多機能が併設されています。グループホームは、2ユニット 18名 2階立てとなっています。ホームの理念 『その人らしく』 1. 笑顔で元気に暮らす。2. 人のつながりを大切にする。 3. 心に寄り添う。 入所者の方々はホームでの暮らしの中で生き生きと暮らしています。日頃より職員とのコミュニケーションを大切にしています。暮らしの中での楽しみや今までの人生に置いて培った力を引き出し暮らしに取り入れられるように支援して行きます。主婦ベテランの方は食後の食器洗いや食器拭きをして頂いたり クリーニング屋さんのように洗濯たたみを行って頂いたり ごみ出しに一緒に行くなどその方の生活スタイルに合わせています。又筋力維持の為、近隣の公園まで散歩に行ったり、体操をしたり暑い夏には夕涼みをして話に花が咲きます。今年、町内会の夏祭りに参加して地域の方々と太鼓に合わせて盆踊りを踊りました。秋には、近隣の方のご厚意でミカン狩りをさせて頂いています。これからますます地域の方との交流を行い人と人との結びつきを大切にしていきたいと思っております。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年10月13日	評価機関 評価決定日	令和5年12月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「あざみ野」駅から小田急バスで「王禅寺東三丁目」下車、徒歩約7分の木々に囲まれた静かな環境にあります。法人はヒューマンライフケア株式会社で、介護事業全般にわたり全国展開をしています。

<優れている点>

一人ひとりの1日の生活を時系列的に分析し、日常ケアを場面ごとにケアプランに落とし込んだ独自のケア表を活用して支援しています。経験豊かな管理者のもと職員の育成を第一に取り組んでいます。ISO手法（何を求め、それを提供していくために継続的に改善していく仕組み）を活かして入社時点からの研修システムに従い、きめ細かい研修を行っています。また、給与体制は透明性と公平性を合わせた評価方法により職員の定着率の高さにつながっています。そして、町内会行事の参加をはじめ、近所の農園でのミカン狩りや、散歩の途中で親しくなった人との談話、地域の認知症相談に乗るなど、地域とのつながりも大切にしています。

<工夫点>

職員が考案したペットボトルキャップ・パズルは、利用者の集中力の向上に役立っています。手編み・大道芸人技・三味線・掃除・洗濯物のたたみ作業・料理など、職員や利用者のそれぞれの特技を活かして役割分担し、達成感を感じる工夫をしています。成功事例を事業所間で共有し、互いに参考にしたり活用する仕組みがあります。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ヒューマンライフケア王禅寺グループ
ユニット名	百合

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時、研修を行いその中で最終日に職員みんなで意見を出し合って理念を決めた。その理念を大きな模造紙に書き張り出し共有してスタートした。理念を共有することで利用者の方々の日々の暮らしが笑顔あふれるものとなっている。	「為世為人」という法人理念に基づき、職員意見を取り入れ「その人らしく」を事業所の理念としています。利用者も職員も「自分らしさ」を発揮して充実感・達成感を感じることを大切にしています。日頃の支援では「家族のように接する」を心掛けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年秋になると近隣の方の御厚意ですぐ近くの畑でミカン狩りをさせて頂いている。その際、農家の方と話をしたり交流をすることが出来る。今年は、地域の夏祭りに参加させて頂き一緒に盆踊りを踊るなど交流することが出来た。	町内会の夏祭りで盆踊りに参加する利用者もいます。今年は屋台ソバが大好評でした。近所の農家でミカン狩りをさせてもらったり、散歩の際に竹トンボが得意の100歳の友達との交流もあります。近隣だけでなく他の地域からも、認知症に関する相談を受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方が来られ認知症の方の対応で悩んでいることを話され相談に乗る。又、認知症の方が急にホームを訪ねて来られその都度対応する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を実施し、意見交換を行っている。ホームの活動報告を行い意見を頂き、又地域の状況を伺うなど意見交換を行っている。	5月から対面での運営推進会議を再開し、町内会長・地域包括支援センターの参加があります。行事報告、コロナの経緯、家族面会の様子などを報告しています。事業所内の事故や、利用者同士のトラブルなども率直に話すことで事業所の透明性を図り、意見も聞いています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	川崎市より新型コロナウイルスの感染状況について状況を配信している。確認をしてワクチン接種について連絡をとり状況を伝え確認し感染拡大にならないように連携をしている。ケアの面では運営指導を頂き運営が円滑に行われていることを確認している。	川崎市高齢・障害課と運営指導や介護認定に関し連携を取っています。生活保護利用者の相談や麻生区からの入居依頼などで、保護課と密接に相談し合い連携しています。コロナ禍では市からの指示や、市への報告・相談など緊密な協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束について研修を行い三ヵ月に一度身体拘束委員会を行っている。その議事録についても全職員が確認している。	3ヶ月ごとに委員会を開催し、記録しています。年に2回ビデオや資料を使用し、法人主催の身体拘束廃止の研修を行っています。職員は、利用者一人ひとりの癖や習慣を把握し職員間で共有することにより、行動・心理症状をおさえ利用者が穏やかに暮らせるような支援を心がけています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者および職員は高齢者虐待について管理者研修や採用時研修で学んでいる又事業所内で虐待が行われないように常に様子を確認している。	採用時研修や年に2回の法人主催の虐待防止研修を行っています。人事評価の基準になっている「職務分掌」の中にも虐待に関する評価項目があり、自己評価と上司からの評価を合わせて理解を深めています。職員の体調維持の為に、休憩や有給休暇をきちんと取れるようにしています。	来年度から、事業所における虐待の防止のための対策を検討する委員会設置・開催・記録・研修・担当者の設置が義務化されるので、具体的な準備が期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は日常生活自立支援および成年後見制度について学んでいる。職員に実際の状況など必要な情報を伝えている。そのことで利用者の権利擁護について利用者に貢献できる形となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については2部作成している。1部は契約者様に渡して説明を行っている。その都度不安なことは訪ね理解して頂いている。契約書の変更については、その都度お知らせして同意を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族に日頃の様子を伝えたり介護計画書の説明を行う際にご家族に意見を伺い反映している。	コロナ禍の間は、管理者が毎月電話で家族に利用者や事業所の様子や報告と同時に家族からの意見を聞いていました。家族の意見でパン好きの利用者が多いことが分かり、パン屋の出前販売をしています。アンパン・メロンパンなど昔懐かしいパンを購入することができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会社に対してはブロック会議で介護現場の状況を報告して意見を伝えている。管理者は、職員会議や面談などを通じて意見を聞き介護現場に役立っている。	同一法人近隣事業所で行うブロック長主催の会議の中で、報告と同時に法人に対して意見や希望を伝えています。職員考案による利用者に人気の、ペットボトルのキャップを利用したパズルを支援の中に取り入れています。大道芸や三味線が得意な職員が、自主的に利用者を楽しんでもらえるレクリエーションを発案し開催もしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、人事考課制度の運用により「なりたい自分」をコンセプトとして職員一人一人 目標設定を行い副管理者と話し合いを行っている。管理者と目標設定を行い進めている。	各職員は4月に目標設定をし、達成度を管理者と話し合い、次の目標を立てます。給与体制は8段階の法人独自のマイスター制度に準じ、透明性があり不公平感の少ないシステムとなっています。法人理念に従い、職員同士も互いに思いやる気持ちを心掛けています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	会社としてマイスター制度を導入している。今年度は職員のKAIGOマイスター・ブロンズマイスター・シルバーマイスターの取得に努めている。	採用時から細かな研修計画を立てシステム化しています。「認知症介護に関する知識レベルのマイスター」と、「介護技術についてのマイスター」など認定制度を導入し、各段階の資格取得によって待遇を決めています。パート職員にも反映し、モチベーションアップに繋がっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	開設にあたり他拠点で現場研修を行いケアサービスについて学んでいる。又職員が交流する場となっている。他拠点の職員と知り合いになることでその後も交流が広がり情報を交換することでサービスの質の向上に繋がっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用開始に当たってはご家族やそれまでかかわってきた介護支援専門員など情報を把握しかかりつけ医の診断書などをもとにその方の認知症について理解をする。そのうえでご本人様から話を傾聴して心配なことやどんな暮らしを望んでいるのかを伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの利用開始に当たってはご家族やそれまでかかわってきた介護支援専門員など情報を把握しかかりつけ医の診断書などをもとにその方の認知症について理解をする。そのうえでご本人様から話を傾聴して心配なことやどんな暮らしを望んでいるのかを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスの利用については、何を優先してケアサービスを行うかということをとくさんの情報の中から優先順位を決めて取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームは共同生活介護ということで暮らしを共にしていく介護なので家事など得意なことや役割として行って頂けることを見出し充実した暮らしができるように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の方が、専門の病院受診が必要となった場合ご家族と相談して通院をお願いしたり協力を頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で外出や面会が出来ない期間があったが、徐々に外出や馴染みの場所に行くなど支援している。そのことで表情が生き生きとなり暮らしの継続ができて来ている。	コロナが5類に移行し、徐々に外出を再開したり、以前の友達の来訪などがあります。職員と将棋をしたり、持ち込みの電子ピアノを弾いたり、毛糸でゲーム用の玉を編んだり、馴染んだ趣味を継続できるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員も入居者の方々も初めてホームで出会い共同生活をしている。職員が積極的に声掛けを行うことで孤立せず共同生活を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者が病院等に入院した時にはご家族や病院の連携室と情報交換をして改善の方向になるように努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃よりコミュニケーションを取りその方の意向を把握している。	利用者の希望や思いは、居室や浴室で1対1になった時や、何気ない日常の会話の中で把握しています。意思疎通が困難な利用者に対しては家族から生活歴や嗜好を聞いて検討・確認しています。「散歩をしたい」「買い物に行きたい」など個別の要望に対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に今までの暮らしについて伺い出来る限り継続できるように支援します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランの3表の中に一日の暮らし方という表を取り入れている。その中に暮らしのこだわりやできること・支援して欲しいことなどを把握することができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの作成にあたり職員より会議などで意見を出し合いご家族と連携をして意向や話を聞いてケアプランに反映をしている。	身体、ADL、排泄など22項目にわたる詳細なアセスメント表を作成しています。サービス計画書3表は、時系列で暮らしの流れ・暮らしの中でのこだわり・できること・できないこと・支援してほしいことをまとめた独自のシートです。適宜モニタリングを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケアについて利用者一人一人記録している。職員は、確認してケアやカンファレンスに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	食事の提供の仕方を工夫したり飲水量が安定するように、その方にあわせた飲み物を提供している。そのことで、健康を維持して元気に暮らすことができる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	徐々にではあるが地域資源の活用ということで病院の把握や買い物や公園など行動範囲が広がってきている。避難訓練などの時、利用者の方々と近隣の小学校を確認したり消防所に水消火器を返却しに行き消防署の場所を確認している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	職員は見学や契約時に医療体制について説明を行っている。又、病院の担当者より改めて説明を受け医療機関と契約を結んでいる。かかりつけ医とも情報を共有して連携をしている。	協力医療機関の医師をかかりつけ医とする人と家族の意向で入居前からのかかりつけ医を継続している人がいます。どちらも月2回の訪問診療があり24時間オンコール対応です。泌尿器や心臓病などの専門医の受診には、家族または職員が同行しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が定期的に健康状態を観察している。又、デンタルクリニックより歯科衛生士が定期的に来て口腔ケアを行っている。そのうえで様子について主治医に伝え連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に置いてホームより情報提供を行っている。又、入院中においてもご家族と様子について共有して退院時に円滑に受け入れができるように病院の担当ケースワーカーと連携を図っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末の看取りの指針について契約の段階で契約者に説明を行い取り交わしをしている。又、主治医と連携して早い段階からご家族と相談して対応にあっている。	重度化した場合は早い段階で医師が家族に説明し、今後の方針やどのように最期を迎えるか、事業所で看取りケア行うかなどを話し合っています。コロナ禍で、看取りの状態にある利用者が居室の窓越しに家族と面会し元気付いた事例があります。利用者と家族が良かったと思える支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の連絡の順番や応急対応など研修する機会を設けて行きたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	職員は自然災害や火災などに対して意識を持ち訓練に積極的に参加して取り組んでいる。又防災訓練についても行い必要物品の確認をするなど全職員で取り組んでいる。	年2回の防災訓練では火災時の誘導、水害時の垂直避難、日中夜間などを想定し総合的な訓練を実施しています。日頃の階段の上り下りが機敏な動きに繋がっています。保存食セットを3日分、トイレセットや防災用品を持ち出しやすい場所に保管しリスト管理しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	長い人生の中で培われてきた人格やプライバシーを大切にして声掛けに注意している。	「その人にとって何が大切か」を念頭に、一人ひとりの個性や特質を見極めて対応しています。帰宅願望から不穏に陥った利用者に対しては、レクリエーションへ誘導し気分の切替えを図るなど個別に対応しています。フロアリーダーが「適切な声掛け」を指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃の暮らしの中で話を傾聴することで利用者の方の意向や暮らしのご希望を捕らえどのようにしたいかを考えられるように働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームは、ワンフロア9名と小人数であることを生かし一人一人に合わせたケアを心がけている。その過ごし方も利用者の様子を捕らえ進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時、洋服選びに注意したり外出時の服装を相談して決めるなどその季節にあったおしゃれをして頂くように心がけている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事やおやつ、お茶の時間をとても楽しみにしている。特別食や季節のメニューや手作りおやつなど工夫している。	餃子やチャーハンなど利用者の希望のメニューを職員と一緒に作っています。湯煎食品を基本としていますが、地域で購入した野菜や敷地内で採れた筍を献立に添えるなどの工夫をしています。近くのいちご農園で販売しているケーキを購入するなど、季節の味覚を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分量を毎日チェックしている。栄養のバランスや水分が不足しているときは、職員間で相談して栄養・水分が取れるように話し合い工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後職員は歯磨きの声掛けを行なっている。訪問歯科と連携をして必要に応じて口腔ケアをして頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用して排泄パターンを捕らえ必要に応じて声掛け誘導を行っている。	自立排泄の人が多くいます。日頃から歩行や運動を促して機能維持を支援しています。パット使用者には様子を見て声掛けし清潔を保っています。尿漏れパットを使用することで、尿漏れの不安感が解消し、行動・行為が落ち着いた事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況を捕らえ排泄表で管理している。便秘にならないように飲み物を工夫して提供したり日頃よりゼリーを手作りして食事後に水分補給として召し上がって頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴についてバイタルチェックを行い体調を確認して声掛けを行なっている。職員が見守りや介護の必要な時に介助を行う中で安心して入浴が楽しめている。拒否のある方も声掛けを工夫して行っている。	利用者がスムーズに移動や、更衣介助ができるように脱衣室を広く設置しています。自立の人には転倒に配慮しながら見守りで支援しています。入浴拒否の利用者に対しては、タイミングを見計らったり、声掛けを工夫して誘導しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中 活動をして頂けるように工夫している。午前の体操や外気浴 散歩などを行い 夜、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診・医療機関に受診した内容について職員間で共通理解いして、薬の変化などを担当職員より伝えている。そのうえで薬の効果・服用の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アセスメントシートを活用して生活歴や嗜好品・楽しみごとなどを把握して暮らしが楽しくなるように支援している。例えば、パン好きの方が多いのでホームまで月1回 訪問販売に来ることになり、好きなパンを選んで購入され召し上がっている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出が難しい時が多かったが可能な範囲でドライブに行ったり季節の変わり目に洋服を買いに出かけたり夏祭りやミカン狩りに行っている。	日常的に少人数で近隣や公園を散歩したり、袋持参で無料のミカン狩りに行っています。多摩川周辺や紅葉見物がてら虹ヶ丘公園へドライブしています。琴平神社の祭りや地域のふるさと祭りに参加して焼きそばや季節の農作物を買うなど、できることを行うことで利用者が楽しめるように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人お小遣いを預かり 必要な日用品や訪問販売のパン屋さんが来た時に支払っている。又、希望がある場合は購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	面会が可能となり電話をすることも少なくなったが、電話で近況を話されたり誕生日のお祝いに電話で連絡を頂いたりしている。希望があればその都度要望に答える。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じるために壁紙を作り楽しんで頂けるように工夫している。快く生活して頂くために清掃活動にも力を入れている。	リビングは利用者が動きやすい配置にテーブル配置しています。利用者はキャップパズル作りや、ぬり絵など思い思いに過ごせる居心地の良い空間となるように心掛けています。猫が好きな利用者が楽しめるように猫の写真を飾っています。前庭にはガーデンチェアを並べて利用者で団欒が楽しめるようにいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	人間関係が円滑になるように居場所の工夫を行っている。一人になりたいときは居室で過ごされたりフロアで過ごしたり状況により場所を変えている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	その方らしい居室作りに配慮している。ご自宅より馴染みの椅子や本棚・写真・電子ピアノなどその方の今までの大切にしてきたものをご家族と相談して置いている。	エアコン、ベッド、クローゼット、チェスト、防災カーテンを備え付けています。利用者はテレビやイス、物入れなどを持ち込み思い出の写真やぬり絵など自身の作品を飾っています。居室担当職員が飾り付けや衣替えなどの衣類管理をして落ち着ける部屋作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアは自由に歩くことができるように安全面に配慮している。そのことで自立した生活ができるように配慮している。		

事業所名	ヒューマンライフケア王禅寺グループ
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時、研修を行いその中で最終日に職員みんなで意見を出し合って理念を決めた。その理念を大きな模造紙に書き張り出し共有してスタートした。理念を共有することで利用者の方々の日々の暮らしが笑顔あふれるものとなっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年秋になると近隣の方の御厚意ですぐ近くの畑でミカン狩りをさせて頂いている。その際、農家の方と話をしたり交流を刷ることが出来る。今年は、地域の夏祭りに参加させて頂き一緒に盆踊りを踊るなど交流刷ることが出来た。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方が来られ認知症の方の対応で悩んでいることを話され相談に乗る。又、認知症の方が急にホームを訪ねて来られその都度対応する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を実施し、意見交換を行っている。ホームの活動報告を行い意見を頂き、又地域の状況を伺うなど意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	川崎市より新型コロナウイルスの感染状況について状況を配信しているので確認をしたりワクチン接種について連絡を頂き状況を伝え確認し合い感染拡大にならないように連携をしている。ケアの面では運営指導を頂き運営が円滑に行われていることを確認して頂い		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束について研修を行い三カ月に一度身体拘束委員会を行っている。その議事録についても全職員が確認している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者および職員は高齢者虐待について管理者研修や採用時研修で学んでいる又事業所内で虐待が行われないように常に様子を確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	管理者は日常生活自立支援および成年後見制度について学んでいる。職員に実際の状況など必要な情報を伝えている。そのことで利用者の権利擁護について利用者に貢献できる形となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については2部作成している。1部は契約者様に渡して説明を行っている。その都度不安なことは訪ね理解して頂いている。契約書の変更については、その都度お知らせして同意を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族に日頃の様子を伝えたり介護計画書の説明を行う際にご家族に意見を伺い反映している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会社に対してはブロック会議で介護現場の状況を報告して意見を伝えている。管理者は、職員会議や面談などを通じて意見を聞き反映している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、人事考課制度の運用により「なりたい自分」をコンセプトとして職員一人一人 目標設定を行い副管理者と話し合いを行っている。管理者と目標設定を行い進めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	会社としてマイスター制度を導入している。今年度は職員のKAIGOマイスター・ブロンズマイスター・シルバーマイスターの取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	開設にあたり他拠点で現場研修を行いケアサービスについて学んでいる。又職員が交流する場となっている。他拠点の職員と知り合いになることでその後も交流が広がり情報を交換することでサービスの質の向上に繋がっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用開始に当たってはご家族やそれまでかかわってきた介護支援専門員など情報を把握しかかりつけ医の診断書などをもとにその方の認知症について理解をする。そのうえでご本人様から話を傾聴して心配なことやどんな暮らしを望んでいるのかを伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの利用開始に当たってはご家族やそれまでかかわってきた介護支援専門員など情報を把握しかかりつけ医の診断書などをもとにその方の認知症について理解をする。そのうえでご本人様から話を傾聴して心配なことやどんな暮らしを望んでいるのかを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスの利用については、何を優先してケアサービスを行うかということをとくさんの情報の中から優先順位を決めて取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームは共同生活介護ということで暮らしを共にしていく介護なので家事など得意なことや役割として行って頂けることを見出し充足した暮らしができるように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の方が、専門の病院受診が必要となった場合ご家族と相談して通院をお願いしたり協力を頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で外出や面会が出来ない期間があったが、徐々に外出や馴染みの場所に行くなど支援している。そのことで表情が生き生きとなり暮らしの継続ができて来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員も入居者の方々も初めてホームで出会い共同生活をしている。職員が積極的に声掛けを行うことで孤立せず共同生活を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者が病院等に入院した時にはご家族や病院の連携室と情報交換をして改善の方向になるように努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃よりコミュニケーションを取りその方の意向を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に今までの暮らしについて伺い出来る限り継続できるように支援します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランの3表の中に一日の暮らし方という表を取り入れている。その中に暮らしのこだわりやできること・支援して欲しいことなどを把握することができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの作成にあたり職員より会議などで意見を出し合いご家族と連携をして意向や話を聞いてケアプランに反映をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケアについて利用者一人一人記録している。職員は、確認してケアやカンファレンスに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	食事の提供の仕方を工夫したり飲水量が安定するように、その方にあわせた飲み物を提供している。健康を維持して元気に暮らすことができる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	徐々にではあるが地域資源の活用ということで病院の把握や買い物や公園など行動範囲が広がってきている。避難訓練などの時、近隣の小学校を確認したり消防所に水消火器をへん		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	職員は見学や契約時に医療体制について説明を行っている。又、病院の担当者より改めて説明を受け医療機関と契約を結んでいる。かかりつけ医とも情報を共有して連携をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が定期的に健康状態を観察している。又、デンタルクリニックより歯科衛生士が定期的に来て口腔ケアを行っている。そのうえで様子について主治医に伝え連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に置いてホームより情報提供を行っている。又、入院中においてもご家族と様子について共有して退院時に円滑に受け入れができるように病院の担当ケースワーカーと連携を図っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末の看取りの指針について契約の段階で契約者に説明を行い取り交わしをしている。又、主治医と連携して早い段階からご家族と相談して対応にあたっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の連絡の順番や応急対応など研修する機会を設けて行きたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	職員は自然災害や火災などに対して意識を持ち訓練に積極的に参加して取り組んでいる。又防災訓練についても行い必要物品の確認をするなど全職員で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	長い人生の中で培われてきた人格やプライバシーを大切にして声掛けに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃の暮らしの中で話を傾聴することで利用者の方の意向や暮らしのご希望を捕らえどのようにしたいかを考えられるように働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームは、ワンフロア9名と小人数であることを生かし一人一人に合わせたケアを心がけている。その過ごし方も利用者の様子を捕らえ進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時、洋服選びに注意したり外出時の服装を相談して決めるなどその季節にあったおしゃれをして頂くように心がけている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事やおやつ、お茶の時間をとても楽しみにしている。特別食や季節のメニューや手作りおやつなど工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分量を毎日チェックしている。栄養のバランスや水分が不足しているときは、職員間で相談して栄養・水分が取れるように話し合い工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後職員は歯磨きの声掛けを行なっている。訪問歯科と連携をして必要に応じて口腔ケアをして頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用して排泄パターンを捕らえ必要に応じて声掛け誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況を捕らえ排泄表で管理している。便秘にならないように飲み物を工夫して提供したり日頃よりゼリーを手作りして食事後に水分補給として召し上がって頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴についてバイタルチェックを行い体調を確認して声掛けを行なっている。職員が見守りや介必要なところで介助を行う中で安心して入浴が楽しめる。拒否のある方も声掛けを工夫して行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中 活動をして頂けるように工夫している。午前の体操や外気浴 散歩などを行い 夜、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診・医療機関に受診した内容について職員間で共通理解いして、薬の変化などを担当職員より伝えている。そのうえで薬の効果・服用の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アセスメントシートを活用して生活歴や嗜好品・楽しみごとなどを把握して暮らしが楽しくなるように支援している。例えば、パン好きの方が多いのでホームまで月1回 訪問販売に来ることになり、好きなパンを選んで購入され召し上がっている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出が難しい時が多かったが可能な範囲でドライブに行ったり季節の変わり目に洋服を買いに出かけたり夏祭りやミカン狩りに言っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人お小遣いを預かり 必要な日用品や訪問販売のパン屋さんが来た時に支払っている。又、希望がある場合は購入している。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	面会が可能となり電話をすることも少なくなったが、電話で近況を話されたり誕生日のお祝いで連絡したりしている。希望があればその都度要望に答える環境がある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じるために壁紙を作り楽しんで頂けるように工夫している。食事の時には、音楽を流し食事が楽しめるように配慮している。又快く生活して頂くために清掃活動にも力を入れている。夕方、利用者の方がフロアの清掃活動をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	人間関係が円滑になるように居場所の工夫を行っている。一人になりたいときは居室で過ごされたりフロアで過ごしたり状況により場所を変えている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	その方らしい居室作りに配慮している。ご自宅より馴染みの椅子や本棚・写真・電子ピアノなどその方の今までの大切にしてきたものをご家族と相談して置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアは自由に歩くことが出来るように安全面に配慮している。そのことで自立した生活ができるように配慮している。		

2023年度

事業所名 ヒューマンライフケア王禅寺グループホーム  
 作成日： 2024 年 1 月 10 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	開設より新型コロナウイルスの感染により地域密着としての活動に制限があり、外出やボランティアの方の受け入れを行うことが出来なかった。	地域密着としての活動を行い地域に根差したグループホームを目指して行く。	地域交流・地域資源の活用を行う。 又、地域のボランティアの方の受け入れを行う。	12ヶ月
2	2	今年に入り地震その他の自然災害が多く見られる。自然災害の為の訓練も行っているが更に実際に起こったときのシュミレーションが必要である。	自然災害が起こったときの対策を行う。	自然災害に合わせた対策を会議で話し合いシュミレーションをする。そのことを職員間で共有して対策や役割を分担して行く。	12ヶ月
3	3	コロナ禍で外部研修や内部研修について積極的に行うことが出来なかった。外部研修については縮小して感染対策に力を注いで来た。	研修を通して職員のスキルの向上を目指す。	社内研修を職員の希望に合わせて行っていく。又、外部研修についても計画的に取り入れていく。	12ヶ月
4	4	家庭菜園やガーデニングを行っていたが昨年の夏の暑さが厳しく断念してしまった。	利用者の方々が天気の良い時にはよく外気浴をされている。利用者の方々と一緒に花や野菜を育てて楽しみのある暮らしに繋げて行く。	玄関や裏庭に季節ごとに利用者の方々と野菜や花を植える。	12ヶ月
5					ヶ月